

令和4年3月17日  
特定分野に特異な才能のある児童生徒に  
対する学校における指導・支援の在り方等  
に関する有識者会議（第8回）  
資料 1

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する  
学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議

---

# GIGA前提時代だから実現できる 誰一人学びから取り残さない公教育へ シェア型教育支援センターの実証報告

---

2022年3月17日(木)

認定特定非営利活動法人カタリバ 今村 久美 瀬川知孝 阿久津遊

KATARIBA

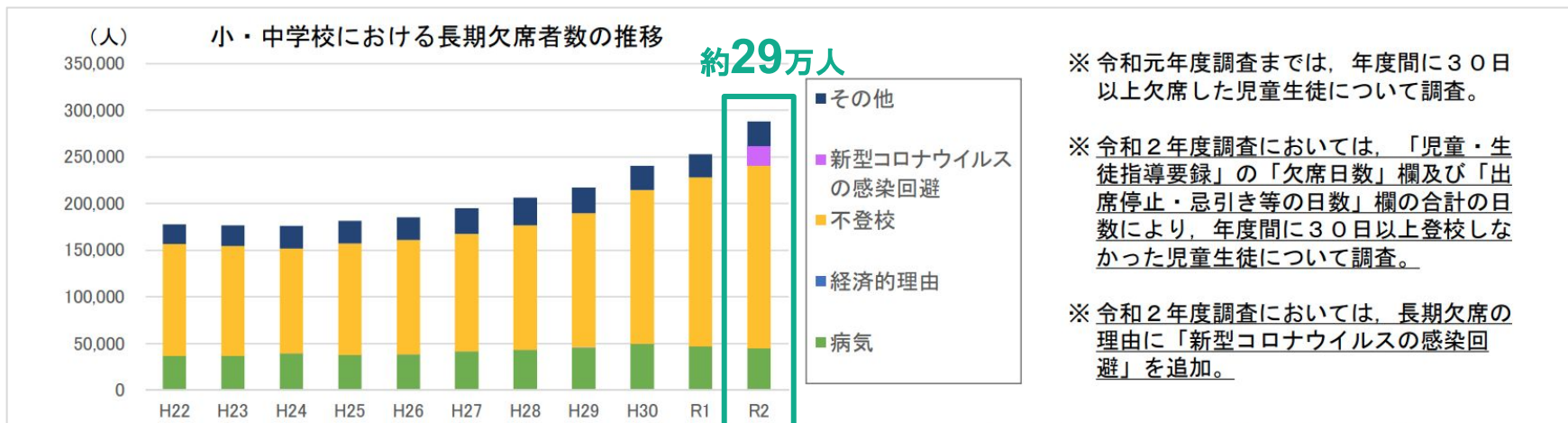
## **Agenda**

---

- 1. いま日本で起きていること的前提**
- 2. 背景にある深刻な課題**
- 3. NPOカタリバの取り組み事例**

# 義務教育 長期欠席29万人時代

小中学校における長期欠席者数は287,747人、このうち不登校によるものは196,127人  
すでに**約29万人の小中学生が長期欠席しており過去最多数**



# 不登校の児童生徒への公的支援が不十分

課題が深刻化する一方で、不登校の児童生徒に対する公的支援は不十分  
居住地や家庭の経済力によって、**学びの機会に格差**がうまれている

## 不登校の児童生徒に対する 公的支援の仕組みが不足している

### ▶不登校特例校(一条校)の設置状況

指定校数 **17校**のみ

(うち公立8校/私立9校)

平成17年学校教育法施行規則の改正により全国化

### ▶教育支援センターの設置状況

・設置自治体は全国の**約63%**

・未設置の理由は、**予算・場所の確保**の問題が上位となっている

## 特に地方においては あらゆる支援が足りていない

### ▶人口が少なく公共交通機関が少ない地方の課題

地方では、全校児童生徒数が100名より少ない学校も多く、1校辺りの不登校児童生徒数でみると校内フリースクール等を設置し運用できる規模感ではない。一方で、自治体内に教育支援センター等を設置しても、公共交通機関が発達していないことから、子どもだけでは通うことができず、孤立しやすい。

### ▶民間サービスや担い手も不足

民間のフリースクール等のサービスも少ない・またはない場合もあり、不登校の児童生徒が通える場所も支援する人材も不足している。

## 学びの保障を家庭だけに 委ねることで格差が広がる

### ▶フリースクール等の会費(授業料)の

月平均額は**約3万3千円**

入会金の平均額は約5万3千円

民間が運営するフリースクールは高額。またオンライン学習等の有料サービスの利用料も家庭負担となる。公的支援が不足する中、家庭の経済状況によって、受けられる学びの機会格差が広がっている。

[出典 | 文部科学省平成27年8月5日 小・中学校に通っていない義務教育段階の子供が通う民間の団体・施設に関する調査](#)

# 不登校の児童生徒への公的支援が不十分

課題が深刻化する一方で、不登校の児童生徒に対する公的支援は不十分  
居住地や家庭の経済力によって、**学びの機会に格差**がうまれている

## 不登校の児童生徒に対する 公的支援の仕組みが不足している

### ▶不登校特例校(一条校)の設置状況

指定校数 **17校**のみ

(うち公立8校/私立9校)

平成17年学校教育法施行規則の改正により全国化

### ▶教育支援センターの設置状況

・設置自治体は全国の**約63%**

・未設置の理由は、**予算・場所の確保**の問題が上位となっている

## 特に地方においては あらゆる支援が足りていない

### ▶人口が少なく公共交通機関が少ない地方の課題

地方では、全校児童生徒数が100名より少ない学校も多く、1校辺りの不登校児童生徒数でみると校内フリースクール等を設置し運用できる規模感ではない。一方で、自治体内に教育支援センター等を設置しても、公共交通機関が発達していないことから、子どもだけでは通うことができず、孤立しやすい。

### ▶民間サービスや担い手も不足

民間のフリースクール等のサービスも少ない・またはない場合もあり、不登校の児童生徒が通える場所も支援する人材も不足している。

## 学びの保障を家庭だけに 委ねることで格差が広がる

### ▶フリースクール等の会費(授業料)の

月平均額は**約3万3千円**

入会金の平均額は約5万3千円

民間が運営するフリースクールは高額。またオンライン学習等の有料サービスの利用料も家庭負担となる。公的支援が不足する中、家庭の経済状況によって、受けられる学びの機会格差が広がっている。

[出典 | 文部科学省平成27年8月5日 小・中学校に通っていない義務教育段階の子供が通う民間の団体・施設に関する調査](#)

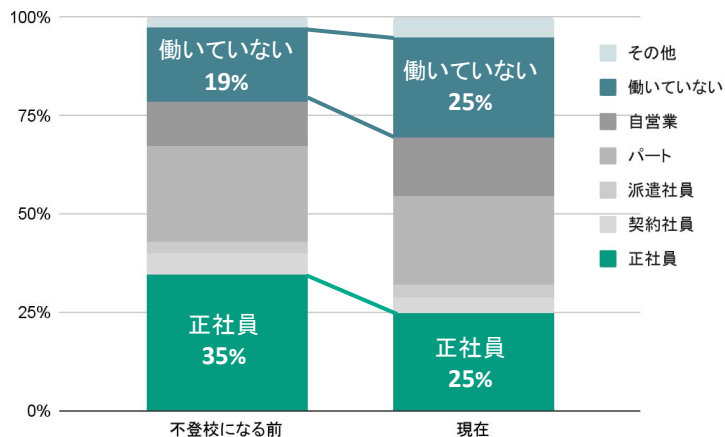
# 不登校が深刻な家庭の貧困につながることも

NPOカタリバが実施したアンケートによると、不登校になる前と不登校中の現在とで、

保護者のうち**32%が就労形態が変化**、**25%が年収が下降**

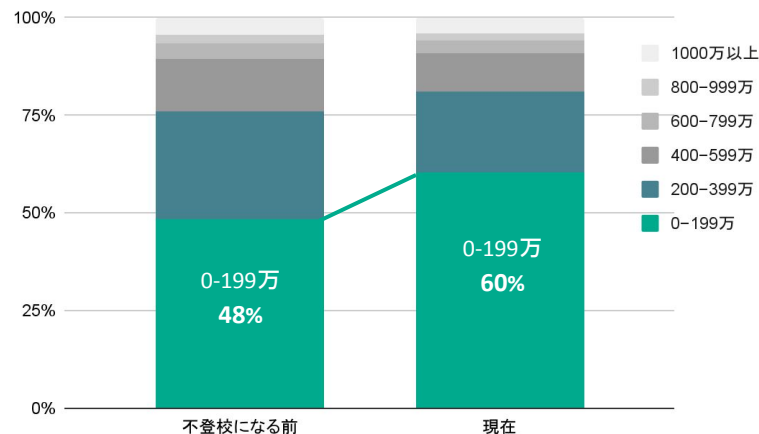
特に200万未満の収入の保護者が増え、**全体の60%を占める**

子どもの主たるケアを担っている保護者の就労形態



正社員の比率は35%から**25%に減少**  
働いていない比率は19%から**25%に増加**

子どもの主たるケアを担っている保護者の年収



0-199万の年収の保護者の割合が  
48%から**60%に増加**

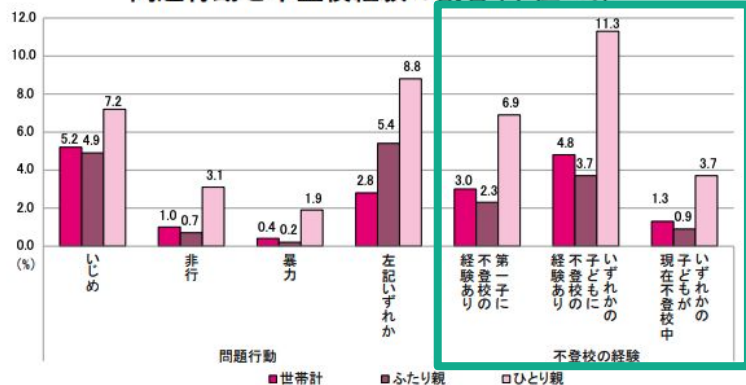


# ひとり親世帯ほど不登校になるリスクが高い

ひとり親世帯では、ふたり親世帯と比べて不登校に悩む世帯が約3倍

不登校がきっかけで貧困に陥ることがあるうえに、経済的に厳しい状況だからこそ不登校になりやすいという実態もあり、ひとり親世帯に対する公的支援の充実は急務となっている

図3 世帯属性(ふたり親、ひとり親)別子どもの問題行動と不登校経験の割合(単位:%)



子どもが不登校経験あり、または現在不登校という割合

ふたり親世帯 6.9%

ひとり親世帯 21.9%

約3倍不登校経験世帯が多い

※2017年6月の厚生労働省の発表によると「児童のいる世帯」の総所得が707.8万円であるのに対し、「母子世帯」は270.3万円という明確な経済格差がある

資料出所:労働政策研究・研修機構「第4回(2016)子育て世帯全国調査」結果速報から引用、作図。

(注)「問題行動」のn数は、「世帯計」(n=2092)、「ふたり親」(n=1344)、「ひとり親」(n=748)、「不登校経験」のn数は、「世帯計」(n=1596)、「ふたり親」(n=960)、「ひとり親」(n=636)です。

# 不登校が深刻な家庭の貧困につながることも

学びの保障が自治体や家庭に依存しているいま、子どものサポートに必要な時間を確保するため、**保護者が就業困難な状況に陥る**ケースが増えている  
支援策が限られる地方都市では、**親も子どもも八方ふさがり**になっている実態もある

### ひとり親家庭で起きた事例

子どものサポートのために必要な時間を捻出するため、勤務形態を変更し収入が減少。経済的困窮度が高まる。

子どものサポートで、放課後や時限途中の登校・心療内科への付き添いを実施。また相談のために、17時までに(教員やスクールカウンセラーの勤務時間内)定期的に学校に通う必要も。ひとり親家庭かつ周囲に頼れる人がいないことから、保護者は時間確保のために勤務形態をパートタイムに変更、収入が大幅に減少。

### 地方中山間地域で起きた事例

公的支援サービスがなく、民間サービスは利用料と送迎の保護者負担が必要。家庭の状況的に活用できる選択肢がなく、子どもは学びの機会にアクセスできなくなる。

子どもが学校に合わず不登校状態に。保護者が学校外教育の場所を探すものの、自治体が設置する教育支援センター等が居住地にはない。近隣の町にある塾やNPOが運営するサービスを利用する場合、遠方のため子どもの送迎が必要になり、利用料も高く、家庭の経済状況から活用することができない。

### 保護者の声

#### ▶ひとり親で3人の兄弟を育てる保護者(富山県)

「最も困っているのは、長男(小4)と次男(小1)が不登校で**仕事に就くことができず、収入が得られない**こと。付き添わないと学校に行かないので、それぞれに送迎が必要で、へとへとになっている。」

#### ▶ひとり親で2人の兄弟を育てる保護者(福島県)

「**子どもの生活リズムを整えるため、昼間は自宅にいてサポートしていきたい**と思っている。准看護師の仕事をしているので、夜勤に変えることが可能だが、自分の身体や生活を守るか不安で、迷っている。」

#### ▶東北の過疎地に住む保護者

「学校からはプリントを配布されるのみ。学校は多忙だといわれており、私(保護者)からお願いをするとクレームっぽくなり関係が悪くなっている。学校には見切りをつけつつあり、学校外の学びの場も探しているが、**隣町まで車で送迎**して、大学生の家庭教師にみてもらっているが、**料金が高いので、今後の継続は迷っている。**」



# 不安を抱える保護者の声

シングルで、家に不登校の子どもが2人いる(中3, 小6)。パートでどうにか生計を立てており、仕事をやめるわけにいかないで、日中は子供だけで留守番。「ネグレクトにあたる」らしいのですがどうにもならない。何かあった時に誰も助けてくれない。教材費用、日中の食事等で、これまでに100万以上かかっている。学校が子どものために何かしてくれるという事もほぼない。(埼玉県杉戸町・2児の母親・シングルマザー)

高校生と小2の2人の子どもがいますが、どちらも昨年不登校になりました。ひとり親でパートをやりくりして年収300万以上稼いでいましたが、仕事を辞めざるを得ませんでした。家庭内が落ち着かず、次の仕事を探す目処もたちません。上の子は発達障害で通院、投薬治療費が必要で、お金は出ていきます。通信制高校への転入を考えていますが、費用がなくサポートしてあげられません。(奈良県桜井市・2児の母親・シングルマザー)

シングルで中3の子とも暮らしている。奨学金を得て家を出た上の子も不登校だった。2人のサポートなどで朝の出勤がままならず、正社員からパートに変更を促された。在宅ワークをしながら頑張ったが、生活保護受給に。上の子の奨学金返済も不安。山奥に住んでいて、フリースクールはすべて遠い。送迎時間もガソリン代ももったいないので近くのファミレスで待っていた。在宅ワークはコロナの打撃で会社都合解雇、今は別の会社の在宅ワークだが常に不安。生活保護から早く抜けたいが叶わずフラストレーションを抱えている。(熊本県山都町・2児の母・シングルマザー)

高校生・中学生・小学生の3人の子どもがおり、全員不登校です。仕事は半分しか行けなくなりました。正社員で年収400万円台でしたが、今は半分以下です。子供は家から出ることができないため、民間の不登校支援に頼るしかなく月10万越える出費になっています。いつまで続けられるか不安でいっぱいです。(岡山県総社市・3児の母親)

中3、小1の子どもの面倒を私が1人で見ています。2人とも不登校です。精神的に不安定で、子どもの年齢も低くて1人で家に置いておけず、また登校期には予定が立てられず、パートの仕事を辞めざるを得ませんでした。学校外の選択肢を増やすためにはお金が必要だが助成などもなく、全額負担するしかない。100万以上はかかりました。(福岡県行橋市・2児の母親)

家事育児に自分都合でしか関わらなかつた夫から「こどもが不登校になったのはお前のせい」という発言があり、それをきっかけに離婚しました。今はシングルで3人の子どもを育てていますが、うち2人が不登校です。学校や親戚等からは、「将来困るよ」という声かけがほとんどで、学校以外の選択肢や本人の学びに対してどう機会を作るかの話をしたくても難しいと感じています。(広島県広島市・3児の母親・シングルマザー)

# オンライン教育支援センター(未来の教室実証事業)

## インターネット上に不登校の子どもたちと保護者の居場所をつくりサポート

子どもの在籍校・地域支援者(NPO等)・行政等とも連携することで、**リアルの関わりとオンラインを組み合わせた支援体制を構築**し、重複した課題の中で生きる子どもの学びと家族の孤立を支援する取り組み

### 子どもへの支援



#### 1. 安心安全な学び場と学習ツールの提供

全国どこからでも参加できインターネット上の学び場を運営。

#### 2. 個別支援計画の作成

面談等をもとに、子どもたちの状況に一人一人の個別支援計画・学習計画(時間割)を作成。

#### 3. 定期オンライン面談の実施

個別支援計画に基づき、専門スタッフが子どもとの定期的なオンライン面談を1on1で実施。

### 家庭への支援



#### 1. 保護者向けオンライン相談・面談窓口

不登校で悩む保護者を対象に、30分のオンライン面談やLINEのチャットで相談を受付。

#### 2. オンライン保護者会

毎月2回実施。様々な悩みを抱える保護者同士で集まり、ゆるやかにおしゃべりをしながら次のヒントを見つけたり、心が軽くなる場をつくる。

### 関係機関／専門家との連携



- ・子どもの在籍校、地域の支援者(NPO等)、行政などとの連携
- ・臨床心理士や社会福祉士や弁護士などの専門家との連携

# オンライン教育支援センター(未来の教室実証事業)

## 子どもへの支援3つの特徴

不登校期間が長く、心を閉ざしている子どもたちも多いことから、個別支援計画を作成のうえ丁寧な伴走を実施  
利用を続けることで、生活習慣の改善・心の成長・意欲の向上・学習の定着といった、ステップアップができるよう支援

### 安心安全な学び場と 学習ツールを提供



家庭からも、学校の別室・教育支援センター等からも接続できる安心安全なオンラインの学び場を運営。教科学習の支援、社会情動的スキルを育むプログラム、興味関心でつながるクラブ活動などを通して、子どもたちに合った学習機会や他者と共に過ごす機会をつくる。

### 専門スタッフが 個別支援計画等を作成



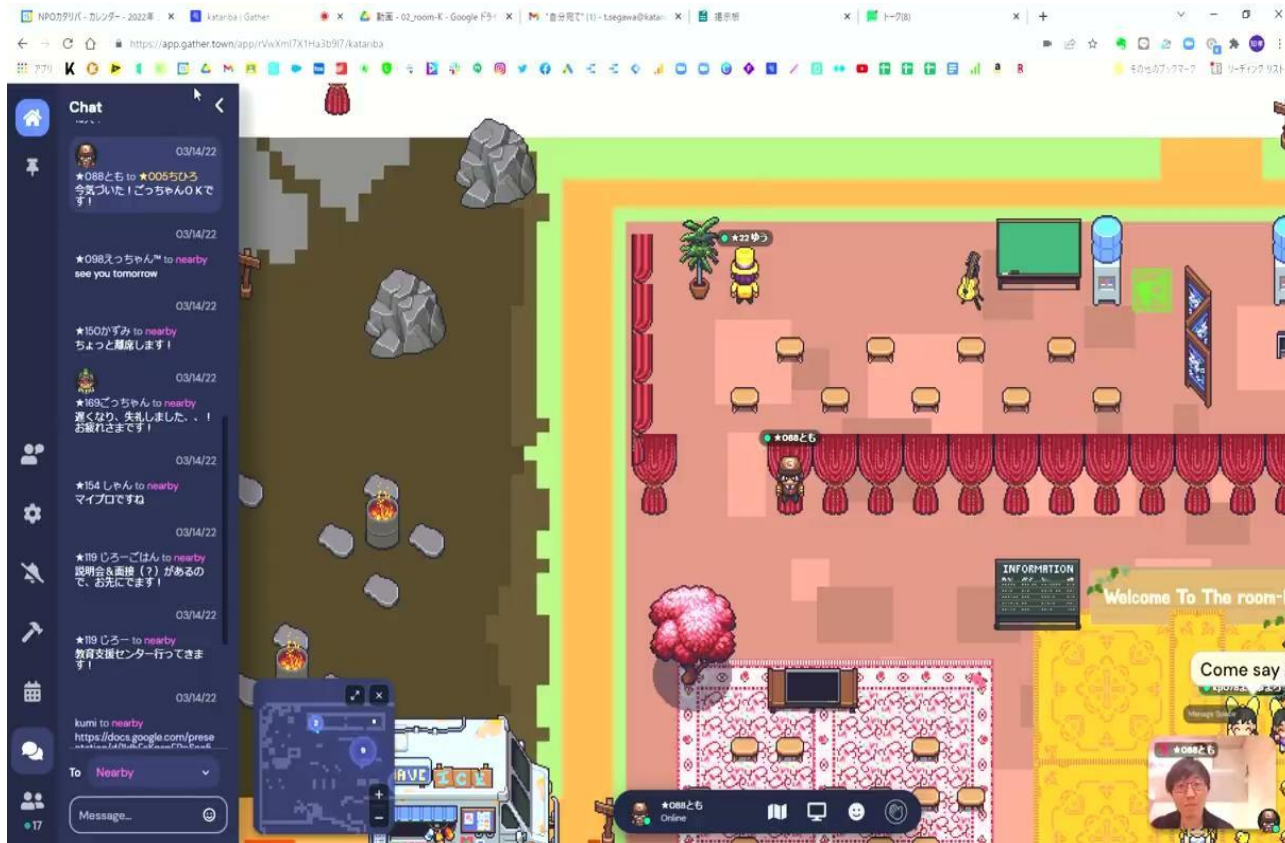
保護者や教員からのヒアリング、子どもとの面談を経て、一人一人の個別支援計画・学習計画(時間割)を作成。心理士や元教員等の専門スタッフがコーディネーターとして、保護者や教員と情報共有をしながら、子どもの心の回復や学習習慣づくり等を目的とした支援をリード。

### 専門研修を受けた メンターが子どもに伴走

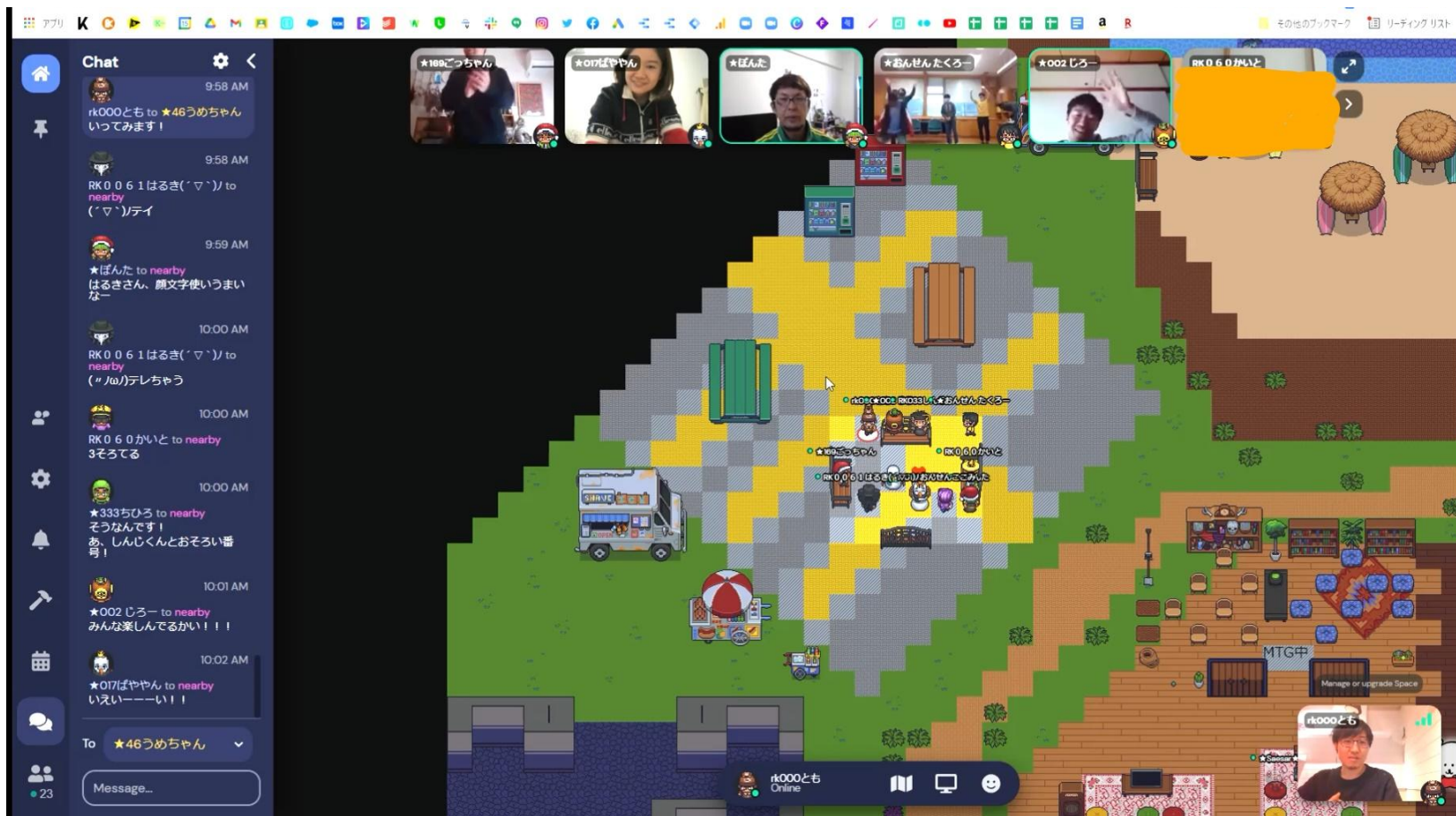


全国から募集・選抜を行い、専門研修を受けたスタッフが、個別支援計画に基づき、子どもと定期的に1on1のオンライン面談を実施。状況に応じた適切なサポートや、学びの機会に誘い出すコミュニケーションを行い意欲を育む。

# オンラインの学び場の様子

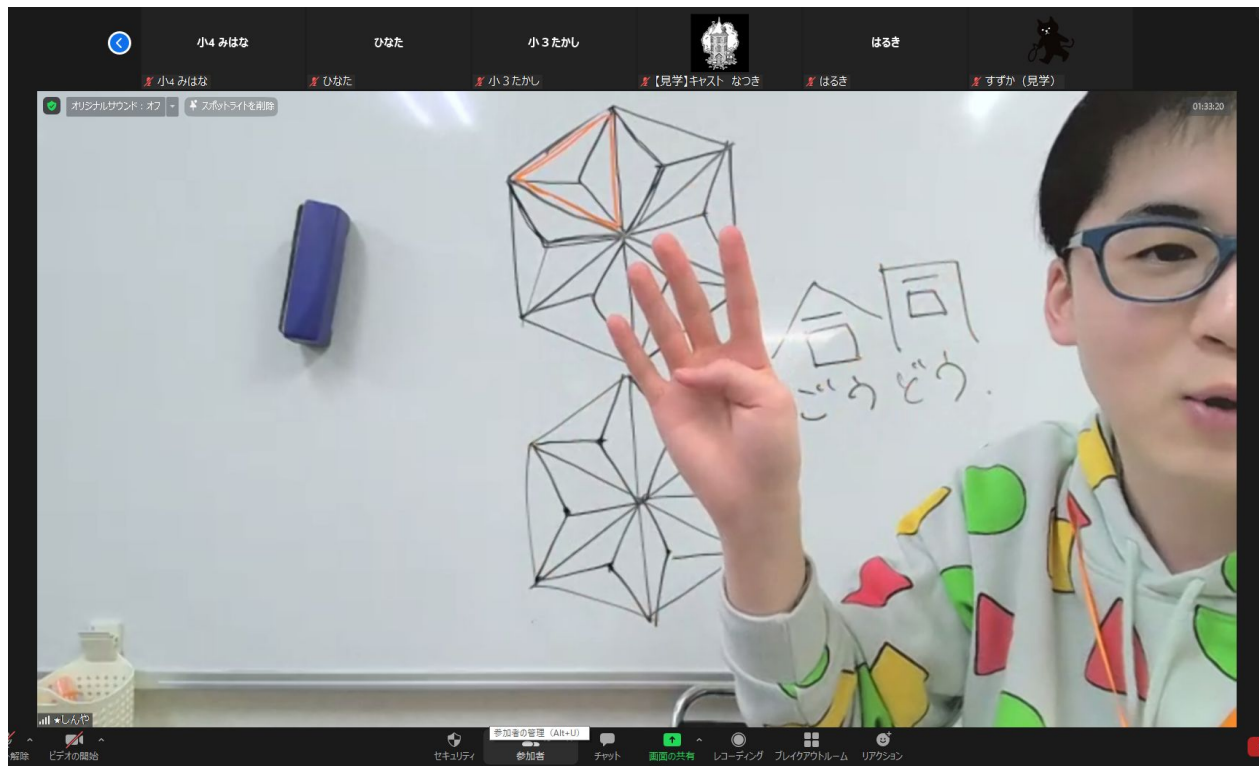
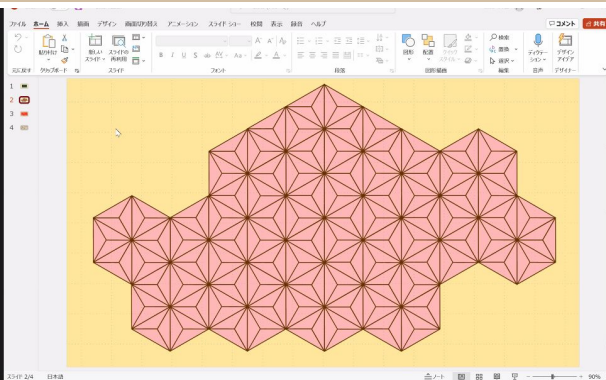
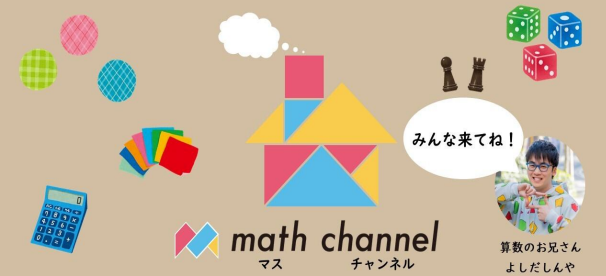


# オンラインの学び場の様子





## 算数・数学を楽しもう！





# 子どもとのコミュニケーションの様子

\* Googleチャットでのメンターと子どものやりとりを一部抜粋

知孝

瀬川知孝 10月12日, 10:19

今日はなせてよかった！来週の「好きな音楽紹介」、楽しみにしてるね！

匿名

10月13日, 22:19

すみません

急な相談なんですけど

という言葉についてどう思いますか

最近母にちゃんとしてくれ、などと言われるんですが

と思うのですが

どう思いますか

知孝

瀬川知孝 10月14日, 18:50 • 編集済み

こういう相談・質問をしてくれるのはうれしいね。お母さんに「ちゃんとしてくれ」と言われてどんな気持ちかな？と言ったとしたら、どんな気持ちがあるかな？もしよかったら、zoomでも話したいな。

さて、ここからは私の考えを書きます。大切な話なので、長くなるし、むずかしい言葉も使ってしまおうと思う。でも、ならわかる気がする。

(中略)

お母さんのこの言葉は、本当に「ちゃんとして」ほしいと思っているのではなく、のことを理解したいという気持ちの表れなんじゃないかと私には思えました。どうだろう？

匿名

10月14日, 22:02

ありがとうございます

じっくり読んで考え直します

ちゃんと親の気持ちも考えてみます

知孝

瀬川知孝 10月14日, 23:33

うん。親の気持ちも考えてみます、と言えるのはやさしいよ。

匿名

10月15日, 18:19

すみません

もう一つ相談なんですけど

匿名

10月15日, 18:21

姉の子供が幼稚園に通うようになって姉が働くことになったんですが、おすすめのものがキーケースや腕時計、ハンカチなどなんですが

送るものはハンカチにしよう、一番使うし、と思って調べたんですがどれがいいと思いますか？

(中略)

候補はこれです

知孝

瀬川知孝 10月15日, 20:34

おー、プレゼントカー。いいね！そして、どれも素敵だから迷う...

1つ選ぶとしたら、ブルーの花柄が特に素敵だなあと思う。

ちなみに、お姉さんの好きな色とわかる？

匿名

10月15日, 23:50

確か青です

やっぱ青の花がらが一番馴染むしおしゃれですよ

知孝

瀬川知孝 10月16日, 11:20

おお、青が好きなんだね！じゃあ、びったりかも。

私も、青の花柄がおしゃれで良いと思うよー。

# 専門家とも連携した支援体制の構築

リスクケースに対応・相談可能な専門家と連携し、必要な時に助言や介入を得られることで、子ども・保護者はもちろん、支援者にとっても安心して支援に臨むことができる体制を構築。この体制により、支援できる人数の量的拡大も可能。

## 「准専門職」としての支援者 コーディネーターの役割

オンライン教育支援センターの支援体制図

### 1 保護者伴走

定期的に保護者面談を行います。家庭やお子さんの困りごとや願いを把握する場として、支援計画の共有・相談する場として、のお子さんの様子を共有する場として活用しています。

### 2 支援計画作成

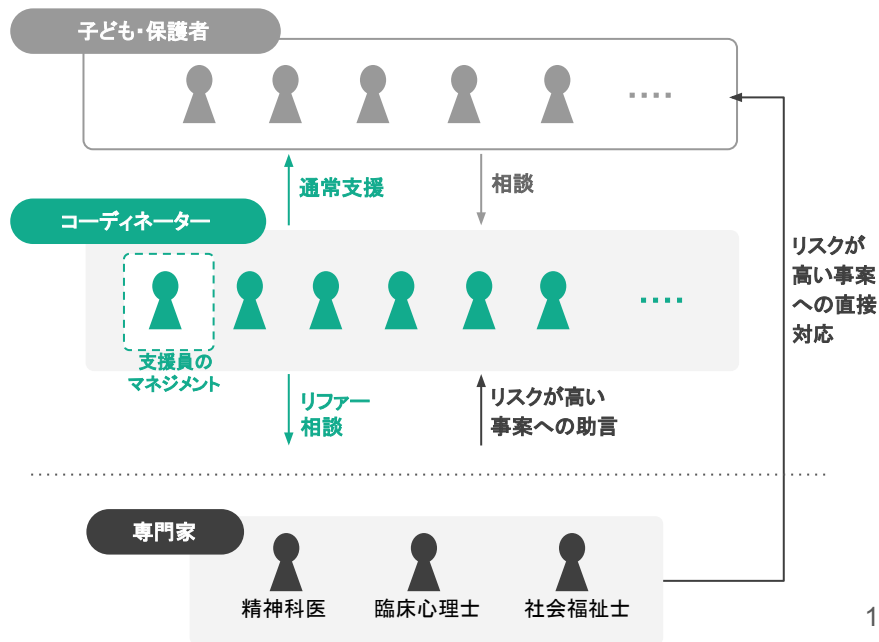
基礎情報やヒアリングをもとにアセスメントを行い、こどもに合った学びを見つけるための個別の支援計画に落とし込みます。支援者同士で毎月振り返りを行い、数ヶ月ごとに直しを行います。

### 3 メンターサポート

メンターと支援計画コーディネーターは毎月ケース会議を行います。こどもに合った誘い出し計画を考えたり、こどもに合った目標設定のサポートを行います。

### 4 学校等外部連携

オンラインとリアルの良さを組み合わせ、継続的な支援体制を構築するため学校を始めとする外部機関との連携を行います。定期的なケース会議、情報共有、出席認定に向けた調整などを行います。



# 子どもの段階に合わせた継続的な伴走

3つの関わり方と4つのステップで、子どもたちの意欲を引き出していく。

## 子どもとの定期的な個別面談 作戦会議

1対1の関係性を通じて、安心安全な居場所をつくります。ゲームやクイズなど楽しむ時間を共有し、関係性を構築します。慣れてきたら、子ども本人の **ニーズや興味関心に基づいた目標=チャレンジの設定**をします。

## チャレンジ達成のサポートの場 作戦実行

作戦会議で設定したチャレンジの実行をメンターがサポートします。**学習習慣、同世代とのつながり、興味関心の探究など**、こどもによってチャレンジ内容は異なります。

## 次のステップに伴走する 接続伴走

メンターの1対1の関係性から発展させ、複数人での関わり、**集団プログラムへの参加などを促します**。プログラムに同行したり、興味関心をベースにした関係性を広げられるようなサポートをします。

### STEP1 信頼関係構築

子どもが定期的に作戦会議に参加できる状態を目指す。

### STEP2 チャレンジの探索

作戦会議、作戦実行を通してメンターとチャレンジできるものを見つけることが目指す。

### STEP3 チャレンジの習慣化

接続伴走を行い、子どもが定期的にプログラムに参加できることを目指す。

### STEP4 目標設定・振り返り

子どもが自律的にチャレンジのPDCAを回るようになることを目指す。

# 個別最適な学びを実現するスタッフ間の連携

こども



安心安全な関係性の構築  
興味関心の発見  
チャレンジ目標の設定



メンター

モチベーションサポート

学びに接続

- ・個別プログラムの依頼/同行
- ・集団プログラムへの同行



キャスト

少人数でのオーダーメイドプログラム  
個別プログラム

好きなことをみつける・深める  
オンラインクラブ



講師

たのしく学ぶ  
5教科学習支援プログラム  
(個別型/集団型)

チャレンジサポート

# 子どものニーズを基につくる多様なプログラム

オンライン教育支援センターでは、子どもたちの興味・関心、ニーズを基に企画するオンラインプログラムを個別型または集団型で実施することで、子どもたちの興味関心を引き出し深めています。現在、20種類のプログラムを実施中。

## 学習支援



学習支援スタッフが5教科学習を個別で対応。学習習慣と自分に合った自学自習の仕方を身に付けることを目的に、AIドリルキュビナや各自実施したい課題に取り組みます。

例) キュビナタイム、まなびプログラム(オンライン自習室)など

## 教科ワークショップ



教科学習に紐づくテーマの集団型プログラム。クイズやゲームを取り入れながら、教科学習を楽しく学びます。

例) 算数・数学を楽しもう! by math channel、プログラミングでゲームを作ろう! by アルスクール、カンジラボ、描いて学ぶ優しい英語 など

## SST

(ソーシャルスキルトレーニング)



社会的スキルと感情表現・自己理解を促進するプログラム。

例) 自分自身を見つめ、変化していく思春期のこころからだへの理解を深めるこころからだ【小学生編】こころからだ【中学生編】など

## クラブ活動



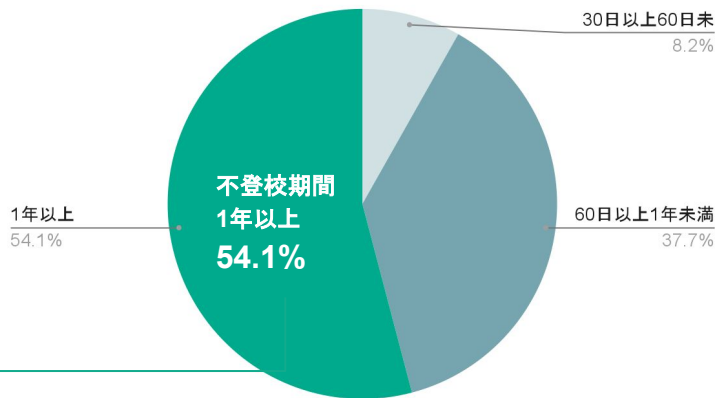
子どもたちの興味関心、ニーズから自ら企画し、つながりを楽しむプログラム。

例) マイククラブ、scratchクラブ、工作クラブ、いきものクラブ など

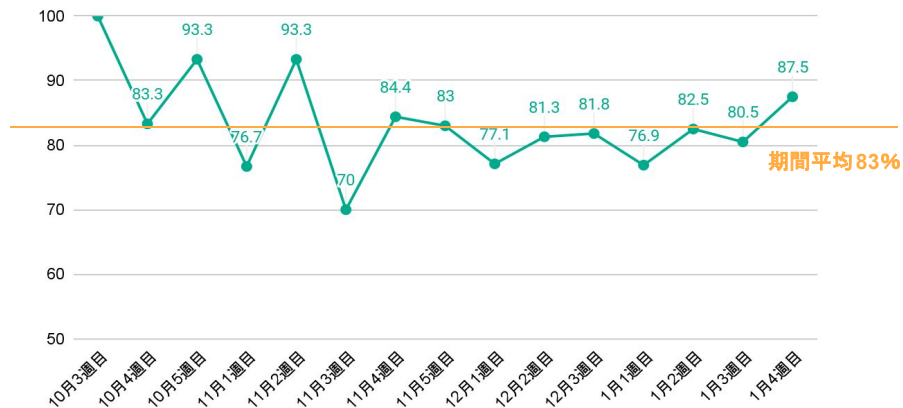
# オンラインだからこそ学びにつながる

ユーザーのうち、**54.1%**が**1年以上不登校**状態でサービスの利用を開始するが、**オンライン支援で、週1回以上学びの場に参加している児童生徒が平均83%**

利用開始時点の不登校期間



週1回以上学習を継続している子どもの割合



● **1年以上不登校の内訳** 1年以上: 13名 3年以上: 13名 4年以上: 2名 5年以上: 3名 6年以上: 1名 7年以上: 1名

**小学4年生**／小学1年生から行き渋りが始まる。ADHD傾向がみられるなどの発達特性を抱えているものの、学校での合理的配慮の調整がうまくいかず、学校生活を送りにくくなり不登校に。本人は好奇心旺盛で「友達がほしい」という気持ちがあり利用開始。

**中学2年生**／小学3年生から不登校になり、積極的に外出はせず基本的に在宅。人間関係のトラブルにより集団生活・コミュニケーションが難しくなり不登校に。学校やSSWの訪問、行政の支援等もほぼ受け付けられない状況で利用開始。



# オンライン支援の担い手は全国から集まる

NPOカタリバが行うオンライン支援事業では、子どもたちや家族を支えたいという人材が日本中(一部海外)から集結し実務を担当しており、採用倍率も非常に高い

## | NPOカタリバ オンライン不登校支援プログラム スタッフの属性と倍率

### 子ども支援担当スタッフ: 44名

活動形態: ボランティアとして週10時間程度活動

担い手 : 大学生~社会人若手層

理系文系現役大学生 / 大学院生、塾講師、放課後児童支援員、作業療法士、海外駐在者、学校教員、県庁職員など

応募者881名  
採用倍率20倍

### 保護者支援担当スタッフ: 45名

活動形態: 月に35時間在宅ワーク

担い手 : 子育て経験のある40~50代の方

社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、キャリアコンサルタント、不登校・発達障害・病児の子育て経験ありの先輩など

応募者300名  
採用倍率6.6倍

### 個別支援計画担当スタッフ: 10名

活動形態: 月に35時間~ の在宅ワーク

担い手 : 元教員や専門職

元学校教員、臨床心理士、公認心理師、スクールカウンセラーなど

応募者800名  
採用倍率80倍

## オンライン支援人材の居住地

### | 北海道・東北

北海道3名  
青森1名  
宮城1名  
福島3名

### | 中部・北陸

長野1名  
静岡4名  
愛知2名  
岐阜1名  
石川1名

### | 中四国

岡山1名  
鳥取1名  
広島3名  
香川2名  
徳島1名  
高知1名  
愛媛1名

### | 海外

スイス1名  
マレーシア1名  
タイ1名  
オーストラリア1名  
ケニア1名

### | 関東

群馬1名  
茨城2名  
埼玉5名  
千葉3名  
東京29名  
神奈川11名

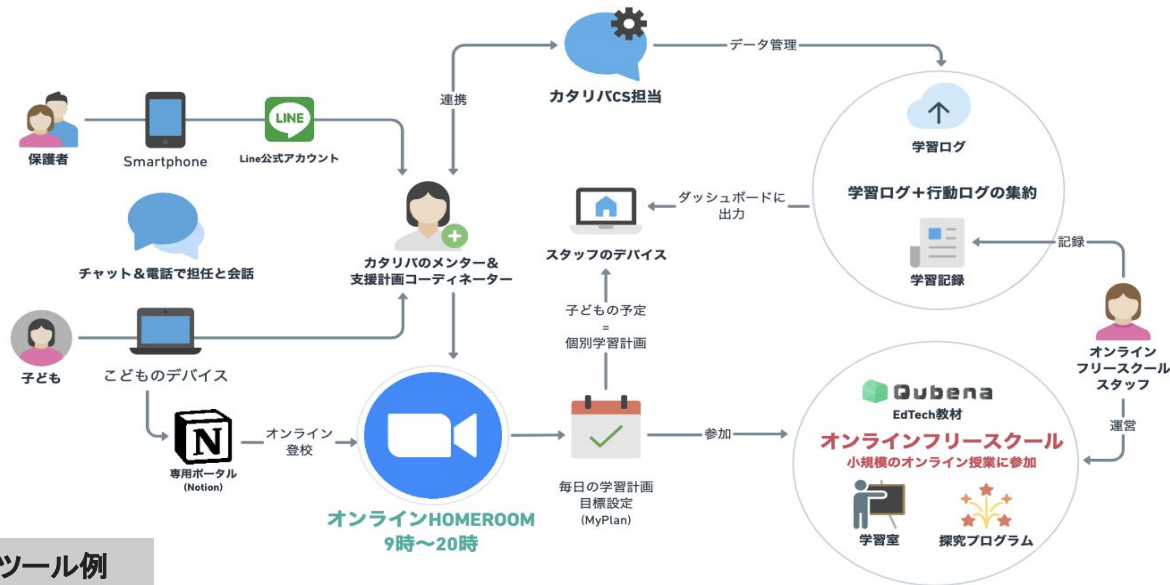
### | 関西

滋賀1名  
京都1名  
奈良2名  
大阪8名  
兵庫6名  
和歌山1名

### | 九州・沖縄

福岡7名  
佐賀1名  
熊本1名  
長崎1名  
鹿児島4名  
沖縄2名

# オンライン支援に必要なツールは十分にある



## 活用できるデジタルツール例

- GoogleWorkspace
  - LGoogleAdmin
  - LGoogle Account(基幹システム)
  - LDevice Update(MDM)
  - LGoogleDeveloperConsole(すべてのシステム統合)
  - LGoogle Apps
  - Lgmail,Chat,Calendar,Docs(通知・誘い出し・計画)

- Line for Business(保護者とタイムリーなコミュニケーション)
- Zoom(オンライン会議ツール)
- Notion(ポータルページ)
- Edtech教材
  - LQubena
  - Lアルスパーク!(プログラミング)

# 自治体との連携することで支援を必要とする子どもとつながる



中野区

## 中野区 中学校(3校):状況が異なる不登校生徒 5名がroom-Kを利用

- カタリバがオンラインでのアウトリーチとメンターによる日々の伴走支援を継続している
- キュビナやオンライン自習室の利用を中心とした活用事例も。  
\* 今後、別室登校の支援の質向上につながることを実証を行いたい。



広島県

## 広島県教育委員会:教員による家庭アウトリーチと連携し支援の充実を目指す

- 行政が設置するサポートルームが1ヶ所にあり6人の指導主事が分担し実務を担当、教員は家庭へのアウトリーチを行うという、分担体制が構築されている。一方で、教員がアウトリーチした際の、誘い出しの手法に限りがあるのが課題。
- アウトリーチの次のステップとして、room-Kに誘い出すことで支援の充実につなげる実証を行う。



## 世田谷区教育委員会:行政設置の教育支援センターと連携し支援の充実を目指す

- 区内に不登校の児童生徒は約300人、そのうちなんらかの支援ができているのは100人ほどの状況。
- カタリバはroom-Kの提供だけでなく、行政が設置するリアルな教育支援センター(3ヶ所)に定期的に訪問し、リアルとオンラインを組み合わせた教育支援センターの構築をサポート。
- オンラインの活用によってリアルな教育支援センターの受け入れキャパシティの向上と支援の質向上につながることを実証を行う。

# 支援を通してみえた可能性と解決すべきこと

## 支援を通してみえた可能性

- ・オンラインの支援でも子どもたちの意欲を引き出すことができる
- ・オンラインだからこそ、支援とつながることができる親子が実は多い  
(オンラインで支援とつながってから、リアルな関わりがもてる学校や地域と連携することでさらに支援の質は高まる)
- ・保護者の支援(心のケアなど)を丁寧に行うことで、保護者の子どもに対する声のかけ方が変わり、子どもが安定して学ぶことができる環境が整い学習習慣が身につく
- ・オンライン在宅勤務であれば、支援者になれる意欲と能力のある人材が多数いる  
支援の担い手を急拡大できる可能性がある  
(常勤勤務は難しいケースが多いが、シフトを組むことで解決できる)
- ・高度な知識や経験を持つ専門家と密に連携することで、多様な人材を担い手としながら、支援の質を担保することができる

## 解決すべきこと

民間団体の信頼性が担保される仕組みがなく、緊急度が高い案件であっても、学校や行政と情報の交換ができないことがある(個人情報保護条例などが課題に)

# 支援事例1 | 子どもの意欲・学力・生活習慣を回復

## 家族構成:

母(中国人/アルバイト勤務)  
姉(専門学校生)  
本人(中3男子)

## 居住地:

中部地方

## 状況:

- ・主たる家計の柱だった父親(日本人)が5年前に死別
- ・祖父母(夫の両親)から、中国で育った母や子どもたちが受け入れられず、家族がばらばらに
- ・母親には障害があり、日本語にもハンディがある給食センターで働くも月給は12万で塾に行かせる余裕はない状態

支援プログラムに申込み

## 子どもへの伴走支援(オンラインでの学習支援・学習計画作成・定期的な面談)

### 支援前の 子どもの状況



- ・小学生の時に、家族の国籍に関して学校でいじめが始まる
- ・ストレスで親に暴力を振るうこともあり精神科を受診、「複雑性トラウマによる適応障害」から不登校と診断
- ・家庭では中国語で話すため、国語力が著しく乏しい
- ・不登校で自尊心が下がり、自分は偏差値 40台の高校しか行けないと思い込み、何にも意欲がない状態

### 子ども



不登校状態の子どもにカタリバから、パソコン・Wi-Fiを貸与し、**オンラインで学習支援**を開始

中3のため、受験勉強や自己申告書作成の支援、カタリバが運営するオンライン学習の場でさまざまな他者と関わり、**社会的情動スキル(非認知能力)**を獲得

オンライン学習の場で提供するプログラミング学習プログラムに熱中、**エンジニアになりたいという将来の夢**を語るようになる

支援開始時点よりも学力がのび、当初よりも**偏差値が20ほど高い地域最難関の学校**を志望するように

## 保護者への伴走支援(オンラインでの定期的な面談・保護者が抱えるさまざまな課題解決の具体的なサポート)

### 母親



- ・日本の中で感じる生きづらさや、子育ての不安について、**定期的にかウンセリングを実施**
- ・オンラインでの子どもの様子などを共有しながら、子どもとけんかした際は相談に乗るなど、ガス抜き役も担う
- ・**食事や生活習慣のアドバイス** も行い、子育てをサポート

## 支援事例2 | オンライン相談から教育支援センターに橋渡し

### 家族構成:

父、母、弟、本人(小6)

### 居住地:

中部地方

### 状況:

・幼い頃から自然科学分野の専門書に興味を示すなど強い関心を示していた。

・小学校の教育方針や教員の考え方など合わず不登校に。

・児童発達支援機関に通所しながらケアを受けている

支援プログラムに申込み

### 子どもへの伴走支援(オンラインでの学習支援・学習計画作成・定期的な面談)

#### 支援前の 子どもの状況



- ・学校には行かず、自宅での学習や塾を中心に生活
- ・地域のイベントなどを通じて、本人の関心に近い専門家との交流はあったが、一時的
- ・同世代とのつながりがあまりない状態
- ・学校に頼れない状況であるため、リアルな支援が不足している

### 保護者への伴走支援(オンラインでの定期的な面談・保護者が抱えるさまざまな課題解決の具体的なサポート)

#### 母親



- ・学習に心配はなものの、同世代とのつながりや交流、社会への適応に不安を感じていた
- ・低学年の頃から教育支援センターへの通所を希望していたが、担任の心無い言葉に傷つき、学校に頼れない状態
- ・カタリバから、保護者同意のもと、教育支援センターと教育委員会に連絡を取り状況を共有
- ・教育支援センターとの橋渡しを行い、来年度春からの通所に向けて調整中。



# 支援事例3 | 興味関心を軸にしたつながりづくりをサポート

家族構成:  
父、母、本人(小1)

居住地:  
首都圏

状況:

・担任の暴言などに傷ついたことをきっかけに、行きしぶりがはじまる

・週1-2回短時間の登校

・生き物に強い興味関心を持ち、豊富な知識を持つ

支援プログラムに申込み

## 子どもへの伴走支援(オンラインでの学習支援・学習計画作成・定期的な面談)

支援前の  
子どもの状況



- ・学校にあまり行けていないため、同世代との交流が不足
- ・特に生き物に強い興味関心を持ち、豊富な知識がある。
- ・同じ興味関心を持つこどもと交流したいニーズが強い

子ども



はじめは緊張もあったため、専属メンターと関係性を築くことから支援をスタート

同世代との交流意欲や、特定の分野への強い興味関心が見えてきたため、他のメンターと協力し、同世代のつながりづくりを計画

複数の大人やこどもとの交流を持ち、好きなことについておしゃべりをする時間をづくりはじめる

もともとあまり興味を示さなかったプログラムにも自ら積極的に参加するようになり、様々なこどもたちとの交流が盛んに。

## 保護者への伴走支援(オンラインでの定期的な面談・保護者が抱えるさまざまな課題解決の具体的なサポート)

母親



- ・日本の中で感じる生きづらさや、子育ての不安について、**定期的にかウンセリングを実施**
- ・オンラインでの子どもの様子などを共有しながら、子どもとけんかした際は相談に乗るなど、ガス抜き役も担当
- ・**食事や生活習慣のアドバイス** も行い、子育てをサポート

# 支援事例4 | 安心な関係性を土台とした誘い出し

子どもへの伴走支援(オンラインでの学習支援・学習計画作成・定期的な面談)

## 支援前の 子どもの状況



- ・保健室登校ができていた時期もあったが、コロナで保健室登校が禁止に
- ・これまでほぼ学校生活を送っていないため、まずは家族以外とのつながり・交流が支援ニーズの中心
- ・本人的には学校の勉強はつまらないと話し、レベルが合っていないのではと思われる
- ・これまでほぼ授業に出られていないが、一部高校レベルの知識があるなど算数の知識が豊富

支援プログラムに申込み

## 子ども



人見知りが強く、画面も音声もオフの状態から支援がスタート

クイズやゲームを通じて、専属メンターとの関係性を構築。毎週定期的にroomkに訪れるように。

徐々に集団でのプログラムに自ら積極的に参加するようになる。

オリジナルの時間割を作成し、より参加率が向上。チャットで自ら発言したり、わからないことを質問するなど、交流

家族構成:  
母、本人(小3)

居住地:  
首都圏

状況:

・支援学級に通っているが個別の支援が不十分で、学校との関係がうまくいっていない

・学校でほとんど算数の授業を受けていないが、高度な算数の問題も解くことができる

# 支援事例5 | 個性に合わせた探究学習のサポート

家族構成:  
母、本人(中1)

居住地:  
四国地方

支援プログラムに申込み

## 子どもへの伴走支援(オンラインでの学習支援・学習計画作成・定期的な面談)

### 支援前の 子どもの状況



- ・母子家庭であり、子どもは母親以外との交流機会が極端に少ない。
- 興味関心や学習能力に大きな凸凹があり、好奇心が満たされないと学びのモチベーションを失ってしまう。
- 学習に対して前向きな気持ちを持てず、できるはずのことに対しても自信を失っている。

### 子ども



個性に合わせた関わりで、生物に関する強い興味関心を伸ばす個別伴走

オンライン上で発表する場に参加するなど、主体的な姿勢をとるもどしつがある。

5教科学習では一部分野に遅れはあるものの、自信を取り戻した今、AIドリルを活用して学習を進めている。

## 保護者への伴走支援(オンラインでの定期的な面談・保護者が抱えるさまざまな課題解決の具体的なサポート)

### 母親



- ・『(ひとり親だけど)ひとりじゃない』、息子を見守ってくれる人がいる、と明るい安心した気持ちになった。
- ・メンターは、ひとりっ子の息子にとって、お姉さん、お兄さんができたようで、優しく一緒にお話していただき、うれしい。
- ・ミーティングやクラブ、プログラムなどでオンラインで友達ができ、楽しそうに笑ったり、話せている様子もうれしいです。

どんな環境で生まれ育つ子どもたちも  
未来を信じ、その才能を伸ばせる日本へ